

東大合格は

いくらで買えるか？

布施川天馬

東大の値段は

1380
万円だ!

東大生100人の独自調査でわかった教育投資の正解を
中学受験から塾選び、おすすめ教材まで徹底解説した上で問う

受験にまみれた人生は本当に幸せなのか？

東大合格はいくらで買えるか？

布施川天馬

星海社

286



SEIKAISHA
SHINSHO

ここに、小学3年生の子どもがいるとします。周りとは比べて特筆すべき頭のよさも無い、ごく普通のお子さんです。その子を、この状態から東京大学に入れるためには、いったいいくらの教育投資がかかると思えますか？

「そんな仮定の話をされてもわからない」と考える方もいるでしょう。「その子の能力による」と言う人もいるでしょう。

しかし、我々は今回この本のために独自調査を行い、ある仮説を立てることができました。1380万円です。1380万円を教育に注ぎ込めば、平凡な小学3年生が東京大学に合格できる可能性が出てくるのです。

本書は「東大生の資格はいくらで買えるのか」「東大合格は日本円でいくらの価値があるのか」を、東大生である筆者が真面目に検討したものです。東京大学の学生、卒業生合わ

せて100人にアンケートをとり、教育学に携わる大学の研究者に話を聞き、あらゆる角度から「東京大学に合格するために何円の教育投資が必要か」を考えています。先述の「1380万円」も、あてずっぽうではなく、多数のサンプルから「**才能に関係なく受かる東大合格ルート**」をシミュレートし、算出したものになります。

みなさんは、わが子を東京大学に合格させるには、いくらのお金がかかると思いますか？
また、いつから受験勉強を始めれば、わが子を東京大学へ送り出すことができると思いますか？

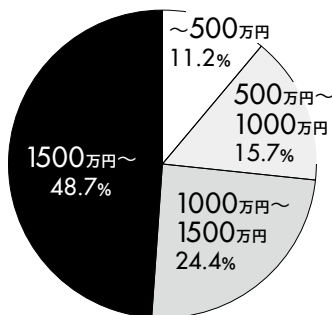
先日、X (旧 Twitter) 上で、アンケートをとってみました。質問項目は、「わが子を東大に送り出すには、いくらのお教育投資が必要だと思うか」。ここでいう教育投資とは、学費に限らず、塾や予備校の費用、それらに通うための交通費、習い事の費用なども含まれます。
Xの仕様上、4つの区分でしかアンケートで聞けなかったのです、おおざっぱに「500万」「500万〜1000万」「1000万〜1500万」「1500万〜」で調査しました。アンケート期間が1日しかなかったのにもかかわらず、最終的な投票数は472票。だいたい集まった方だと思います。各区分に対する投票のパーセンテージは以下の通りでした。

「500万円」	11.2%
「500万円～1000万円」	15.7%
「1000万円～1500万円」	24.4%
「1500万円～」	48.7%

この結果を見ると、世間の人々（少なくとも、普段から教育について情報発信している私のXを見ている人の多く）は、**東大合格までに1500万円以上の資金が必要だと考えていることがわかります。**

このイメージはどこから来ているのでしょうか。

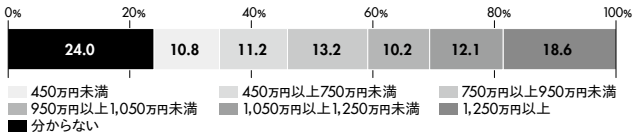
1つは、東京大学に通っている学生の多くが、富裕層出身であることが挙げられるでしょう。東京大学学生委員会が2021年度に実施した「学生生活実態調査」の報告書によれば、調査に回答したおおよそ17000人の学生のうち、30%が世帯年収1050万円以上であると回答しています。「わからない」という回答を除いた、世帯年収が判明している学生約1300名内の割合に絞れば、約45%にもなります。実際は「わからない」として



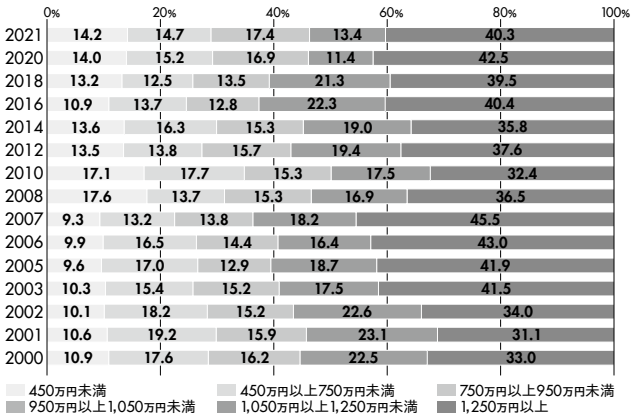
「東大までの教育投資にいくら必要と思うか」アンケート結果

る学生も少なくない数が年収1050万円以上の世帯に生まれているでしょう。少なくとも東大生の半数近くが世帯年収1050万円以上の世帯出身者になります。

これは2021年度の結果に限られません。同調査は毎年行われていますが、過去の調査を振り返ってみても、ほぼ毎年4割近く、もしくはそれ以上の東大生が世帯年収1000万円以上の世帯出身であるとされています。2022年に厚生労働省から発表された「国民生生活基礎調査の概況」によれば、2021年時点での全国の世帯年収の平均値は545.7万円。総務省が201



生計維持者の年間税込み収入の経年変化



9年に行った「全国家計構造調査」によれば、47都道府県のうちで一番世帯年収の平均が高いのは東京都で、その金額は629・7万円です。すなわち、**東大生の親の大半は収入が全国平均のおよそ2倍**、世帯年収平均額が全国で一番高い東京に絞つても、その1・5倍以上の収入を得ていることがわかります。

これは冷静に考えてもとんでもないことです。東京大学は、お金がない人でも学べるように学費が安くなっている国立の大学でありながら、そこに入学しているのは富裕層の子どもたちばかり。**東大は実質、富裕層向けの大学**になっていると言っても過言ではないのではないのでしょうか。

学歴社会化が進んでいる日本では、**良い大学に行けば行くほど、高収入を得やすいこと**がわかっています。これは、生涯収入の額を見るとわかります。例えば、ある会社に正社員として60歳の定年まで勤めたと仮定した場合、労働政策研究・研修機構による『ユースフル労働統計2022』によれば、男性は中学卒で1億9000万円、高校卒で2億1000万円、高専・短大卒で2億1000万円、大学・大学院卒で2億6000万円になるといわれています。また、女性は中卒で1億5000万円、高校卒で1億5000万円、

高専・短大卒で1億7000万円、大学・大学院卒で2億1000万円となると推計されるそうです。このデータは、男女で賃金の差がありつつも、基本的には中卒よりも高卒が、それよりも大卒がより多くの賃金を得られることを示しています。

先ほど述べた「大卒」はいわゆる大学卒業者の生涯収入を推計したのですが、これを東京大学出身者に絞るとどうでしょうか。コンサルティング会社のAFGが行った試算によれば、東京大学出身者の生涯収入は、推計で4億6126万円にも上ります。高卒で働いた場合の、2倍以上にもなる大差です。

これらのデータから予想できることがあります。それは、**東京大学を通して、富の再生産が行われている**ということです。優秀なエリートたちは東京大学へ入学し、そこから社会へ羽ばたいていきます。元東大生たちは社会でもその才能を遺憾なく発揮し、バリバリ働きながら、出世競争に勝ち抜いていきます。そうして勝ち取った地位のもとで、得られる十分な収入を教育投資につぎ込んで、自分の子どもにもエリートの教育を施します。そうして育った子どもたちの多くは、父や母のように東京大学を目指すでしょう。こうして、富裕層の子どもが富裕層になる再生産が行われているのです。

しかし、本当にエリートの家庭に生まれるしか東大に合格する道はないのでしょうか？ 私は、世帯年収300万円台の家庭出身ですが、1年間の浪人の末に、東京大学に入学することに成功しています。わずかながら、そういった相対的貧困家庭からの東京大学出身者も存在しています。では、そういった人はいったいどれくらいの割合で存在し、どのように東大に合格しているのでしょうか。そして、多額の教育投資を受けながら、東京大学に手が届くことなく受験の場を去った人々とは、いったい何が違ったのでしょうか。

本書は、第1章で「東大生には東京大学に合格するまでにいくらの教育投資がなされているか」を検討します。それには、株式会社カルペ・デイエムさまと星海社さまの協力のもとに、東大生1000人を対象としたアンケートの結果を利用します。教育投資の金額だけでなく、中学受験を行った回答者の割合や、中高一貫校に通っている人の比率などで割り出し、検討を進めます。

第2章では、第1章で判明したデータをもとにして、「効率よく東京大学を目指すための道筋」を考えます。もちろん資本主義社会においてたくさんのお金を投資すればするほどに有利になることはわかりきっていますが、どのタイミングで、どこに教育投資をすべき

なのかを検討していきます。また、逆に教育投資に使えるお金がない場合には、どのように戦うべきかまで考えていきます。

第3章では、世帯年収300万円台の相対的貧困家庭から東京大学に合格した私と、偏差値35から東京大学に合格した、現役東大生作家の西岡壺誠さんとで対談を行い、**現代の受験戦争における問題点と攻略法**を問い直していきます。

そして第4章では、実際にふんだんな教育投資を受けて東京大学に合格した東大生や、お金をかけずに東京大学に合格した東大生たちに具体的なエピソードを聞いています。それぞれの戦い方と、小中高時代に考えていたことなどから、**子どもにとって最良の道**は何かを探っていきます。

そもそも、本企画は、「**受験にまみれた人生は本当に幸せなのか?**」という問いから始まっています。幼少期からわき目もふらずに受験ばかりに没頭すれば、いつかは東京大学に入れるかもしれない。でも、それで本当に幸せをつかめるのであろうか? そう考えて、この企画を立てました。本書のテーマは「東大合格はいくらで買えるのか?」ですが、これは、「〇〇万円で東大合格を買ってください!」の意味ではありません。むしろ、「〇〇万円と、△年もの月日をかけてまで、東京大学には行く価値が本当にありますか?」と、

みなさんに問い直す企画です。

世の中には「勝ち組」「負け組」という言葉が溢あふれています。先日ある方に取材した際にも、お子さんが東大に入ったことを知ったお知り合いから「おめでとうございます！ 勝ち組ですね！」とメッセージをもらい、面食らったという話を聞きました。

しかし「東大に入れば人生勝ち組」、これは本当なのでしょうか？ 東大に入っていない方からすれば、そう見えるのかもしれませんが。ただし、実際に一浪して東大に合格した私はそうは思いません。東大受験にかかるお金、年月などを調べた上での個人的な結論としては、「コスパ」や「東大卒」の名前以上に大事なものはあると考えています。

この本を執筆するに至ったきっかけは、東京大学で出会った友人たちの家庭環境の闇にあります。私の出会った東大生たちには、親との関係性に悩んでいる人が多くいました。もちろん、親と仲良く付き合っている人もいましたが、あまり親との思い出を語りたがらない人がたくさんいたのです。

彼らの共通点は、受験にあります。彼らは、小学生のころから受験戦争に巻き込まれていました。小学校のころに友達と遊んだ時間や男女共学の高校に通って、友人たちと交友を深められた日々は、もはや二度と帰ってきません。失われた時間を取り戻すかのよう

受験を終えてから必死に遊び続ける姿からは、違和感がぬぐえませんでした。

いったいなぜ、そこまでして受験の世界へ飛び込もうとするのか？　そもそも、東京大
学合格にそこまでする価値があるのか？　どうして10歳のころから塾通いを続けて東大を
目指す人生が存在するのでしょうか？

ここまででは金銭的な格差にのみ注目してきましたが、地理的な格差も語らなくてははいけ
ません。実は、**東京大学の入学者のうち、毎年3分の1近くは、首都圏にある特定の10高
校から輩出**されています。日本全国で名前が知られているはずの東京大学は、東京や大阪、
神奈川など限られた一部地域出身の学生が大半を占めているのです。地方出身者であるだ
けでマイノリティになってしまう——東京にある大学なのだから当たり前かもしれませんが
が、実際に通っている身としては、もつといろいろな地域から学生が集まってきてもいい
と感じます。東京大学に首都圏出身者が多いのは、受験戦争熱の高い地域が首都圏だから
です。全国から才能のある若者を集めれば、東大生輩出地域の一極集中は解消されるはず
です。

本書の最終的な目標は、東京大学に合格するための効率的な方法を模索することにあります。そうして、全国各地の受験生たちが、もっと気軽に東京大学を目指せるようになればよいのではないか。そうすれば、さらに多様化が進んで、東京大阪偏重の状況が変わるのではないかと信じています。

本書を書くにあたって、東大生100人を対象に、世帯年収や両親の学歴、小中高の教育投資の費用など「受験とお金」についてアンケートを実施しました。このデータ（以下「アンケート」）をもとにしながら、果たして東大合格はいくらで買えるのかを考えていきます。

はじめに 3

第1章 **東大合格にはいくら必要か？** 19

東大生の親の学歴と世帯年収は？ 20

東大生の誕生日と出身地域は？ 24

東大合格にかかるお金の平均値は？ 27

小学校でいくらかかった？ 30

小学校時代の塾通いの比率は？ 31

塾以外の習い事は？ 32

中学受験率は？ 33

東大生が「小学校時代の投資として無駄だった」と振り返ること 36

中学校でいくらであった？ 38

中学校時代の塾通いの比率は？ 41

中高一貫率は？ 44

中学校時代に無駄だった教育投資は？ 47

高校でいくらであった？ 48

高校時代の塾通いの比率は？ 50

無駄だった教育投資は？ 55

合計で、東大合格のためには「何万円」必要なのか？ 57

1章のまとめ 59

章間コラム 東大生が自分の家を裕福／貧乏だと思った経験 63

コスパのいい東大合格のための最適解は？

東大合格者はどこで課金しているのか？ 72

結局、中学受験はするべきか？ 77

東大合格の重課金ルート 子どもの才能に頼らず、お金で東大合格を勝ち取るにはいくらかかる？ 82

東大生は「エリート」の受験人生」をどう思うのか？ 96

東大合格の費用対効果が一番いいのはどういう道？ 106

費用対効果のいい参考書や授業サービスの具体例は？ 109

家庭教師は必要か？ 家庭教師をどれくらい割合の人が付けているのか？ 118

ピアノは必要なのか？ 岡山大学准教授・中山芳一先生に聞く 121

2章のまとめ 125

第3章 「教育とお金」で考える受験戦争の問題点と攻略法

「貧困世帯出身東大生」布施川天馬 × 「偏差値35からの這い上がり東大生」西岡吉誠 131

お金で学歴が買えていいのか？ 132

東大受験は暗記でハックできる 137

学歴を買うことは悪いのか？ 142

親のエゴだけで受験していいのか？ 145

「お金がなくて東大に行けなかった」と言う人に言いたいこと 154

受験は親のモラルも試される時代 160

第4章 東大合格者に「受験にかかったお金」を聞いてみた 167

学校を使い倒して合格した東大生の実例 布施川天馬の実体験 168

塾に行かずに合格した東大生の実例 齋藤あかりさんインタビュー 185

公立中高から推薦で東大合格した東大生の実例 A・Tさんはインタビュー 199

家庭の方針で中学受験を断念した東大生の実例 縹峻介さんインタビュー 209

中学受験をして東大に受かった受験エリートの実例 W・Tさんはインタビュー 218

東大合格には

いくらが必要

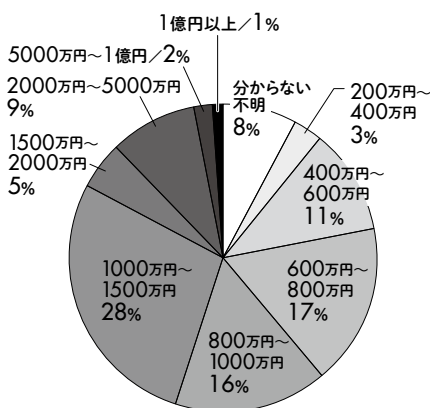
か？

第1章ではまず、東大合格のために必要な金額を割り出していきます。東大生を対象に実施した本書独自アンケートでは、小学校、中学校、高校時代の教育関連費を聞いています。これは学校の授業料だけではなく、塾や予備校の費用や、参考書の購入費用、教育関連以外の習い事費用なども含みます。また、東大生の親の学歴と世帯年収の関係性などについても検討します。

東大生の親の学歴と世帯年収は？

まず私たちは、東大生1000人を対象として、世帯年収を尋ねました。結果は次の通りです（n=100）。

200万	400万	3%
400万	600万	11%
600万	800万	17%
800万	1000万	16%
1000万	1500万	28%



本書独自アンケートに基づく東大生の家庭の世帯年収

1500万～2000万	5%
2000万～3000万	6%
3000万～4000万	1%
4000万～5000万	2%
5000万～6000万	2%
1億～	1%
わからない	8%

2000万円から4000万円が3%ほど。東京大学の実施している2021年度の学生生活実態調査からみると、世帯年収450万未満の家庭が10・8%存在するようなので、今回の調査ではかなり少なめに出ているようですが、どちらにせよ東京大学の全体の中でマイノリティなのは否めません。

問題は、世帯年収が全国平均値の545・7万円を上回る、600万～800万より上の回答者の割合でしょう。92人中の78人なので、回答者のうち84%が世帯年収の全国平均を上回る家庭出身者であることがわかります。世帯年収1000万以上の家庭に絞っても、

92人中45人なので、およそ48%の方が全国世帯年収平均の約2倍以上の家庭出身であることがわかります。

なお、2021年度に実施された東京大学の学生生活実態調査（n=1510）では、次のような年収分布になっています。

450万円未満	10.8%
450万円以上750万円未満	11.2%
750万円以上950万円未満	13.2%
950万円以上1050万円未満	10.2%
1050万円以上1250万円未満	12.1%
1250万円以上	18.6%
わからない	24.0%

この数値と我々の実施した年収分布では異なる部分も多いですが、「わからない」と回答した24%の人を除いたうち、世帯年収950万円以上の家庭の割合に絞れば53%となり、

我々のとったデータの48%とある程度近似します。少なくとも世帯年収1000万円以上の家庭出身者の割合については、我々のアンケートはサンプル数こそ少ないものの、信頼が置けると考えていいでしょう。

また、今回のアンケートでは東大生の親の学歴も調査してあります。一般的には中卒より高卒が、それよりも大卒の年収が高くなる傾向にあります。今回とったデータでも、おおよそ同じような分布が見られました。特に父親が4年制の大学を出た家庭の世帯年収の平均は高い傾向にあり、父親の学歴が世帯年収に、ひいては子どもの学歴に影響している可能性も否めません。なぜならば、世帯年収が高ければ高いほどに、世帯の可処分所得の総額は増えるため。当然、教育投資にかけられる金額も大きくなるからです。

ここまでの話から、必然的に「親がたくさんお金を稼いでいるから、教育にお金をつぎ込めるので、結果的に成績が上がっている」シナリオが出てきます。しかし、これは本当なのでしょうか。ここまでの話はすべて推論にすぎず、「お金持ちが教育に大量の投資をしている」保証はありません。東大に合格する子どもたちは、自らの努力によって、もしくは自らの才能で合格していることもあり得ます。

本アンケートでは、ここを確かめるために、小学校、中学校、高校でどれだけのお金を

教育投資として費やしたか伺っています。ここからは、東大生が大学入学までにどれだけ
の教育投資をかけられてきたのかを考えていきます。

東大生の誕生月と出身地域は？

まず、誕生月を調べてみました。これは、前提として早生まれが不利になる傾向にある
と考えたためです。一般に、4月生まれから3月生まれまでの人が同じ学年になります。4
月生まれの人と3月生まれの人では、およそまるまる1年の差ができることになります。
発達初期段階での1年間の遅れは、大きなものです。同じ小学校3年生だとしても、小学
校3年生の中で一番成長が早い人と、限りなく小学2年生に近い人とは、勝負になりま
せん。

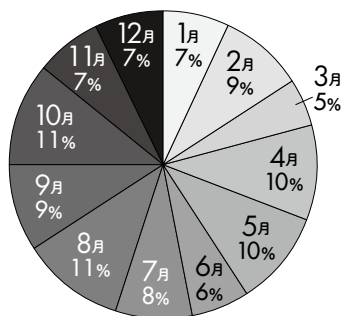
これは運動能力だけではなく、勉強にも及びます。この発達の差は、成長していくにつ
れて徐々になくなっていきますが、発達初期段階でついた差から「自分は勉強ができない
のだ」と思い込んでしまう可能性があります。極端な話、本当ならば東京大学に行けるポ
テンシャルがありながらも、「勉強が苦手」と思い込んだまま一生を終えてもおかしくあり
ません。そのため、私たちの立てた仮説は、「東京大学出身者には3月生まれが少ないので

はないか」です。逆に4月～6月生まれが多いと予想していました。

結果から言うと、少なくとも今回のアンケートにおいては、まったくそのような傾向は現れませんでした。4月生まれから3月生まれまで、およそ均等に7%～10%程度ずつ分布しており、ここに有意な差は見られませんでした。そのため、東京大学に行くのに、生まれ月はそこまで関係ない可能性があります。

出身地域は、首都圏が多い傾向にあります。今回とったアンケートでは、東京出身者が100人中の27人、神奈川出身者が13人。合計して40人が関東近郊の首都圏出身者になっています。大阪出身者や京都出身者は少なく、なぜか次点で多いのは宮城県出身者(7%)でした。これ以下の細々した数値にはあまり意味がないかもしれませんが、無作為に抽出した東大生たちの出身地域を調べると、4割が東京や神奈川など首都圏近郊地域であることは見逃せません。

一般的に、東京や神奈川など、首都圏地域に生まれた方が受験は有利になります。なぜならば、それだけ優れた塾や予備校など教育サービスにアクセスしやすいからです。例えば、大手予備校グルー



東大生の誕生日分布

プである駿台予備校に着目してみると、東京と大阪にはそれぞれ7校の校舎があることがわかります。一方で、関東・東海・関西以外の地域にはほとんど校舎がありません。札幌、仙台、広島、福岡にそれぞれ1校ずつあるだけです。

私は、以前より地方から東京大学に合格した学生にインタビューして、その困難性を世間へ伝える記事を作っています。ある時、香川県から東京大学に合格した学生に話を聞く機会がありました。彼の言葉でひとつ、印象に残っていることがあります。それは、「**予備校の授業を受けるために香川から大阪まで行った**」でした。

私は東京の出身です。東京には様々な予備校があり、新宿、池袋あたりに出れば、誰でも手厚い教育サービスを受けることができます。その際の交通費も、東京近郊に住んでいればせいぜい片道300円〜400円程度もあれば足りません。私にとって、教育サービスは、「いつもすぐそこにあるもの」でした。

一方で、香川県に住む彼にとって、教育サービスは「すぐそこにあるもの」ではありません。大手予備校である駿台の校舎は四国になく、河合塾もマナビスという衛星予備校が県内に1つあるのみ。たまの休みに特別講義を受けたいなら、高額な交通費と、時には宿

泊費を出して、大阪など都会へ行くしかありません。彼にとって、教育サービスにアクセスすることは、大変困難を伴うものでした。

また、沖縄から合格した別の学生に話を聞いたこともありました。彼は、塾なしで東大に合格した傑物です。しかし、その本当の理由は、「塾に通いたかったけれども、近くにまともな塾がないから」でした。塾に通いたいと望んでも、近くにまともな塾がないパターンもあります。四国ならともかく、沖縄から本州へ渡ってくるのは並大抵の覚悟ではないけません。地方から東京大学に合格する学生の少なさは、教育投資に対する意識の低さもあられるかもしれませんが、どこかに投資したくとも投資先が存在しないことも原因でしょう。

東大合格にかかるお金の平均値は？

アンケートの結論を述べると、東大生に聞いた結果では、「東大生になるまでの教育投資」の総額の平均は700万円でした。内訳は、小学生の時におおよそ200万円、中学生の時におおよそ200万円、高校生〜浪人時に300万円です。これは、いわゆる塾や予備校の費用だけでなく、学校の授業料や、ピアノなど勉強以外の習い事の月謝も含む数字です。

この数字を見て、みなさんは高いと思ったでしょうか。低いと思ったでしょうか。東大生の自己申告による数字ですから、非常に高い信頼性があると思われるかもしれません。ですが、我々はこの数字を信頼できないと判断しました。なぜならば、自己申告では塾に通っていたり、私立の学校に通っていたりしているのに、自己申告の数字上では100万円もかかっていないとしている回答者が非常に多かったです。

小学生の塾は非常に高額です。コースにもよりますが、中学受験ともなると、年間100万円以上かかることも少なくありません。これが小学校4年生から続くので、しっかりと中学受験対策をしている前提で考えると、塾に通っているのであれば、最低でも250万円は使っている計算になります。また、中学校や高校で私立に通っていると、やはり年間当たり100万円近くの学費をとられることも珍しくありません。それにもかかわらず、自分に使われた金額が「100万以下」という答えを信用するのは、あまりにも無理があります。

もちろん、特待生の可能性は私も考えました。そのため、アンケート項目上には小中高各時代について、「学校や塾で特待生待遇を受けていたのか」と質問してあります。しかし、この質問に対して「いいえ」と答えているにもかかわらず、不自然なほどに教育投資

の総額が少ない人がたくさんいたのです。

もともと、親が払っている金額を子どもが知るはずありませんから、これは無理ありません。そのため、我々は最初から「自己申告による数字」と「通っていた塾や予備校、学校などから推測される、よりリアリティのある数字」の2つの数値があることを考えていました。

我々が推計した「よりリアリティのある数字」による、**東大合格のための教育投資の平均値は約870万円**です。小学校に関しては、塾に通っていると申告した場合、250万〜300万円がかけられていると推測しました。また、ピアノやバイオリンなどの勉強以外の習い事はひとつあたり50万円としてカウントしてあります。この数字は公立校に通った人と私立校に通った人とを合わせてカウントしているので、実際に私立校に通った場合はもっと高い金額がかかってきます。

中学校と高校に関しては、私立校に通っている場合、年間の学費を100万円と見て、300万円で計算してあります。また、塾に通っている場合は、年間100万円で計算していますが、今回は1年間通っている想定で試算しています。また、浪人を申告している人は、浪数×100万円の追加投資を想定しています。

中学受験をする子どもは、小学校4年生くらいから塾に通い始めるケースが多いようなので、10歳から18歳までの9年間で870万円を投資することになります。1年あたり100万程度、月間だと8万円程度を教育関連にかけるイメージです。

総務省の統計局による家計調査を見ると、2023年の7月から9月期の平均では消費支出が平均して約28・5万円（2人以上の世帯）になっています。実収入は1世帯当たり55・6万円となっているので、このうちから追加で10万円を教育投資に回すイメージになります。住んでいる地域の地価や物価などによつては少々きつい生活になりますが、可能ではないラインでしょう。

小学校でいくらかった？

我々の推計によれば、東大合格者の小学校時代の教育投資の平均は約316万円です。これは公立小学校に通ってほぼ学費ゼロの人から、私立小学校に通っている人まで含みます。

小学校での教育投資の使いどころは大きく分けて2種類です。ひとつは塾や予備校。もうひとつは勉強以外の習い事です。100人中76人が「塾以外の習い事をして」と回

答しています。そのうち多かったのは、ピアノと水泳です。前項でも解説した通り、小学校時代の塾や予備校は1年あたり100万円程度かかります。そのうえで、中学受験の基本は小学校4年生から3年間通うことです。塾によっては小学校4年以降の入塾を断っているところもあり、現在の受験対策の早期化が見て取れます。

ちなみに家庭教師を活用している家庭は少なく、今回の調査では100人中9人のみが「家庭教師がついていた」と回答しています。家庭教師がついているかよりも、塾に通っているかの方が重要なかもしれません。

小学校時代の塾通いの比率は？

100人中64人が小学校の時に「塾に通っている」と回答しており、そのうち一番多かったのは日能研でした。次点でSAPIXと公文式が続きます。日能研、SAPIXは学受験では特に有名なもので、知っている方も多いかもしれません。

参考までに日能研の授業料を見ると、小学校4年生時点での月謝はおよそ2万円となっています。しかし、これはあくまで小学校4年生時点のものであり、小学校5年、6年と年次が上がっていくにつれて、徐々に学費は高くなっていきます。追加で入会金や模

試の費用、教材費などがかかります。初期費用としては12万程度を見ておくといいでしよう。

また、ホームページで公開されている講習費一覧には、「期間講習」の費用が載せられていません。期間講習とは、夏休みや冬休み中に開講される特別講座のことで、建前上では参加自由となっていますが、期間講習まで参加して初めてカリキュラムが終了するなど、実質強制参加になっているケースも少なくありません。

期間講習は、その塾にもよりますが、1講座あたりのバラ売りになっているケースもあります。1つ授業を受けるたびに2万円〜3万円払わなくてはいけなくなることも珍しくなく、非常に高額になる傾向があります。参考までに、日能研が2023年に出している夏期講習のチラシを見ると、小学校6年生向けの夏期講習は、4教科受講の総額が199650円、2教科受講の総額が130350円となっています。

塾以外の習い事は？

ピアノは多くの東大生が触れている習い事です。今回調査した中では、東大生100人中42人がピアノを習っていたと回答しています。また、そのうちの24人が世帯年収100

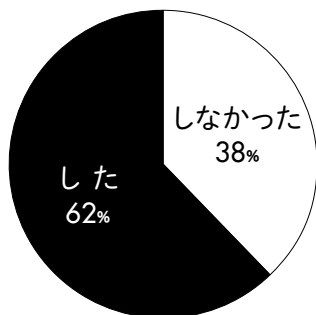
0万以上の家庭出身者でした。世帯年収が高額な家庭であればあるほど、ピアノを習わせていると考えられるかもしれません。

中学受験率は？

中学受験をした比率は、100人中62人でした。塾通いをしていた人のほとんどは中学受験をしているようです。受験先としては、灘、開成、麻布、桜蔭や豊島岡女子学園など、有名どころが多い印象です。中学受験をしている人の世帯年収は1000万以上の家庭から400万〜600万の家庭まで、幅広く存在しています。ここ数年収による有意差は見られませんでした。

逆に中学受験をしていない人の多くは、そのまま学区の中学校に進学しています。中学受験をする人の多くが中高一貫校に通うので、中学受験は早めの高校受験と見て取れるでしょう。ここで失敗した人でも、高校受験でリベンジを図るケースもあります。

中学受験の利点はいくつかありますが、やはり大きいのは「高い教育水準へアクセスできること」でしょう。中学受験を通じて進学



東大生の中学受験率

する学校は、通常教育水準が学区の公立中学校よりも高く、質の高い教育プログラムを受けられたり、特別なカリキュラムに参加できたりします。これらは、お子さんたちにより高度なスキルや知識を身につけてもらうのに役に立ちます。優れた中学校には、教育環境が整備されているので、勉強に専念するためのリソースや設備が整っています。

例えば、行われる授業がどこまで詳しく教えてくれるかで考えても大きな違いがありますし、それらの授業を経て出てきた質問に対して、どれほど手厚く対応してくれるかも、学校によって異なります。一般的には、良い中学校であればあるほどに、良い学習環境が提供されます。高校受験をするにしても、中学校の内容をより高いレベルで学ぶことができるため、公立中学校に通う生徒よりも比較的に有利な位置からのスタートを切りやすいこととは間違いありません。

また、将来の進学機会を拡大するものでもあります。優れた中学校、特に有名私立中高一貫校を卒業することで、偏差値の高い大学へ通うチャンスが生まれます。一般的に中学受験で一部の中高一貫校が有名になっているのは、東大進学率の高い高偏差値の高校へエスカレーター式に上がっていく権利が手に入るためです。

大学受験でカギを握るファクターの一つは、どれだけ優れた高校に通っているか。優れ

た中学校に通っておくのは、ひとつの選択肢となりえます。特に浪人が一般的ではない高校受験において一発逆転を狙うよりも、中学受験をしておいた方が、保険をかけられます。仮に失敗してしまっても、高校受験で再度リベンジすればいい。

また、中学受験は将来の人間関係の構築にも役に立ちます。例えば、開成中学校や灘中学校の学生たちは、そのうちのほとんどが東大志望。そうして、毎年100人以上の合格者を出します。ここで忘れてはいけないのは、彼らの多くは、あらかじめ知り合いであったことです。東大の入学式で交わされる言葉の多くは、「はじめまして」ではありません。「おお、君も合格していたのか。久しぶり！」です。ある特定の学校から多くの学生が合格するからこそ、東大での人脈形成は中学校から始まっているといえます。

実際、東京大学に入ってから、クラス内で活躍するのは、開成や灘出身の学生たちです。彼らが優れていることは疑いようありませんが、そこは理由ではありません。東大には開成高校や灘高校出身者が非常に多いため、入学したばかりであっても、既に人脈ネットワークが完成しているのです。だからこそ、クラスやサークル内での渉外を担当するのは、ほとんど彼らの役目になります。知り合いの少ない他校出身者があたるよりも、少ない労力で仕事ができるためです。

知り合いの先輩や後輩も数多くいるため、彼らから試験の過去問を融通してもらうことも容易です。サークルに入っても部活に入っても、彼らがゼロからのスタートを切ることはありません。基本的にはどこに行っても知り合いがいます。日本のエリート層の人脈形成は、もはや中学校時代から始まっています。

東大生が「小学校時代の投資として無駄だった」と振り返ること

無駄だった教育投資は「特になし」という回答が多かったのですが、少ない回答の中で多かったのは「通信教育」でした。学校の進度と大きく異なっている点や、教材過多になつてしまった点を指摘する声が多くありました。

また、一部の塾については、そこに通う生徒のモチベーションや授業のレベルが低かったことを理由として、通わない方がよかったとされています。ひとくちに塾と言つても、超進学塾から学校の勉強の補習をする塾まで様々なので、もし入塾を検討するのであれば、お子さんの理解度や勉強意欲などから適切な塾を判断するといいかもれません。例えば、学校の補習塾などは学費が比較的安くなる傾向がある反面、そこまで高レベルなことは教えてくれません。また、そこに通う生徒のモチベーションも高くない傾向にあります。場

合によっては、いざ授業に出てみたら欠席者ばかりだったなんてことも……。

逆に、日能研やSAPIXのような進学塾の場合、学校で教えられることはすべて理解している前提で話が進みます。補習を目的としてこれらの塾に行っても、目当ての指導は受けられない可能性があります。また、これらの塾は成績ごとに生徒のクラスを管理しており、生徒間の争いをモチベーション維持に利用しているため、あまり学習意欲が高くないと、嫌になってしまいかもしれません。一方で、生徒の受験モチベーションは高い傾向にあるため、しっかり勉強したい人にはこちらのタイプの塾が向いているでしょう。

ある東大生は、「**教育投資があったから今の自分があることはわかっているが、それでも小学校時代の遊ぶ時間をつぶしてまで勉強をする必要があったのかは、いまだに自分でもわかっていない**」と答えています。人生は一度きりで、ほかの人生を体験できない以上、仕方のない悩みではありますが、もし中学受験を全力で行うのであれば、小学校時代の遊びの時間を削って勉強に振ることになります。

筆者である私自身は、小学生のころ、友人たちといろいろな公園やアスレチックで日が暮れるまで遊んだ思い出を持っていて感謝しています。ただ、人によっては、もっと勉強して、より優れた中学校に通った方がよかったと考える人もいるでしょう。どちら

も同じ人生ですが、どちらを選んでも、後悔が生まれる可能性はあります。お子さん自身が受験をしたいのであればよいですが、そうでなかった場合には、お子さんの小学校時代の思い出を奪って勉強させることになる。これを忘れてはいけません。

中学校でいくらかった？

中学校では平均して約243万円がかけられているようです。このうち、多かった教育投資先としては、学校の学費と塾代が挙げられます。小学校のころは私立に通う生徒の割合が6%と非常に少なかったのですが、中学校になるとこれが大幅に増えて、45%にも達します（海外の日本人学校含む）。

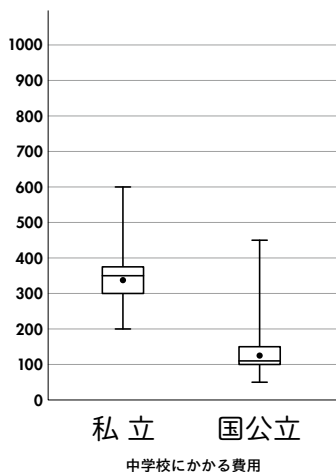
ただ、後述しますが、私立中学校に通うだけで300万円支払う必要が出てくるので、私立中学校と公立中学校では大きな差がありそうです。そこで、今回とったデータを「公立中学校に通っていた人」「私立中学校に通っていた人」に分けて、それぞれ平均をとってみました。すると、**公立中学校に通っている人の3年間の学費平均額は125万円、私立中学校に通っている人の3年間の学費の平均額は347万円**となりました。それぞれ、学校に通いながら、1年間だけ塾に通っていたと仮定すると、ちょうど収まる金額になり

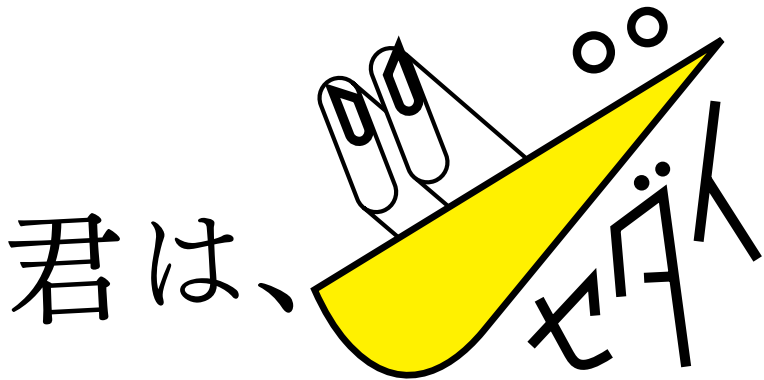
ます。

私立中学校に入ると、どれほど学費を払う必要があるのでしょうか。例として開成中学校の学費等納入金を見てみましょう。納入金は以下のようなになっています。

入学金	320000円
施設拡充資金	1200000円
授業料	410000円
施設維持費	60000円
実験実習料	60000円
父母と先生の会費	28000円
生徒会会費	5500円
学級費	学年により変動

(2022年度第1学年は115000円)





君は、

ジセダイ

何と闘うか？

<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!